

「たけのこ館」で 田代を元気にしたい

組合長
佐藤 友司さん（出口1）

熱意とタケノコ
パワーを持った
努力の人

高齢化が進み、後継者難と言われている現代の農業では、農家が自信と誇りを失いかけているような気がします。他の地域で開設されている農産物直売所を参考に、地元の農家が、意欲を持って農業を続けていくための手段として、地場農産物を販売する場所を設けたらどうかと地域の人々に呼び掛けて、この「たけのこ館」をオープンさせました。

当初、趣旨に賛同してくれたかたは、寄付金をいただいたかたも含めると、80人ほどでした。土地や建物の準備、内装などの経費は、県や旧田代町からいくらかの支援も受けましたが、会員の力によるところが大きいのです。もちろん、借金もして開業にこぎつけました。現在の会員は73人です。順番に店番などをして、慣れないながらも自分達で運営しています。

オープンにはさせたものの、運営を維持していくのはなかなか大変です。特に農産物の出荷が無い冬期間は午前中のみの営業でした。それでも経費はかかります。固定的な支払いがありますので、「タケノコまつり」で売り上げた収益金を運転資金にして、どうにか1年が過ぎました。これからは、開業時の借金返済も始まり、気は抜けないと思っています。今後、運営が軌道に乗ってきたら、後継者、特に頑張っている女性たちにバトンタッチしたいと思っています。農家を、女性を、そして、私たちの田代地域を元気にしていくために、この「たけのこ館」で頑張りたいと思っています。



▶天然水と地元で加工したリンゴジュース。清涼感が漂います。



平成十八年度の目標
多品種・少量生産に挑戦
一人一品の加工品づくり
販売額一人三十万円達成

▶直売所とも言えども、毎月の維持管理費を支払うのは大変。今年度の目標が掲げられています。

▶「たけのこ館」の自慢はタケノコ。現在は、生タケノコは無く、びん詰と缶詰での販売になります。

